

令和元年度音声教科書普及推進会議

「音声付教科書」利用事例

2019.9.24



仙台市立五城中学校 LD・ADHD等通級指導教室

担当教諭 齋藤 道美

仙台市のLD・ADHD等通級指導教室

	小学校	中学校
全学校数 (分校を除く)	120校	64校
LD・ADHD等通級指導教室 設置校数と教室数	12校 14教室	5校 6教室

※令和元年現在，中学校のLD・ADHD等通級指導教室は市内の5つの区に1校ずつ設置されている。五城中は2教室。

五城中学校の通級生徒数

	自校(五城中)		他校		人数
	男子	女子	男子	女子	
1年	1	0	4	0	5
2年	4	0	4	1	9
3年	1	0	4	2	7
人数	6	0	12	3	21
	6		15		

※上記の正式な通級生徒のほかに、校内支援として数名の生徒を支援している。

通級生徒の診断名等

※正式な診断名ではない「疑い」も含む

ASD

ADHD

LD

ASD+ADHD

ASD+LD

ASD+ADHD+LD

ASD+LD+DCD

ASD+吃音症+選択性緘黙

このうち、

- ・読むことに困難のある生徒は、6名。
- ・書くことに困難のある生徒は、14名。
- ・上記のうち、読み書きの両方に困難のある生徒は、6名。

※読みが困難な生徒は、全員書きにも困難がある。

読みの状態

- ・文末などの勝手読みがある。
- ・一部逐次読みがある。
- ・単語、文節のまとまりを正しく捉えられない。
- ・特殊音節を含む単語を読むのが苦手。
- ・飛ばし読みがある。
- ・漢字が読めない。
- ・音読み熟語が読めない。
- ・文字を集中して読み続けることができない。
- ・読んでも内容がわからない。記憶できない。

生徒の読みの困難

本人たちの感じる困難

読んでいると
疲れる

行間が狭いと
読めない

漢字が
読めない

疲れるから
すぐに嫌になる

読んでも意味が
わからない



読みの困難がある生徒

注意の集中、
集中持続が
困難

思考多動があり、
衝動性が強く、
落ち着いてじっくり物
事を捉えることが困難

物事の因果関係の理
解が苦手。思い込みで
理解することがある。

形・位置・方向の認識
困難。漢字の形を
捉えられない。

眼球運動に
苦手さがある

視覚情報の
記憶保持が困難

語彙が少ない



漢字の意味を
捉えていない

漢字の形・読み方・意
味を関連づけられない

読みに困難がある生徒自身の願い

勉強ができるようになりたい

漢字が読めるようになりたい

楽に教科書が読めるようになりたい
読める = 音読・意味理解

どうせ
自分は勉強が
できない



音声教材利用の試み

マルチメディアデジタル教科書

AccessReading

使ってよかった

- ・英語の読みがわかる。
- ・人の音読だと読みまちがいがなく、漢字の読みがわかる。
- ・ハイライトで読んでいる場所がわかる。
- ・文字だけでなく読み上げの音を聞くことで内容がわかりやすい。
- ・文字を見やすい大きさにできる。



なかなか自主的に利用することにつながらない

- ・家で使えるパソコン、タブレットがない。
- ・家にインターネット環境がない。あるいは、パソコン等の使用ができると、ゲームやYouTubeに集中してしまう弊害が起きる。
- ・機器を使用することがめんどくさい。
- ・指導者の努力不足で、より効果的な利用法を知らせることができない。
- ・通級指導教室で週1回学習するだけでは、日常的な学習につながらず、家庭や在籍学級での利用には至らない。
- ・「クラスで人と違うことをしたくない」

音声付教科書の利用

- ・普通の教科書とほぼ同じ。少し厚いのみ。
- ・音声付教科書とペンだけで、その他の機器が不要であるため、家の中の自分の部屋やリビングなど、どこでも取り出してすぐに使うことができる。
- ・聞きたい所をペンでタッチするだけで、すぐに聞くことができる。
- ・漢字が読めず意味がわからないときに、ペンをタッチすることで、すぐに読みがわかる。
- ・1文ずつの読み上げを聞いて、追い読みをして読みの練習をすることができる。

使いやすい



生徒自身が語った音声付教科書の利用法と感想



「小学校3, 4年生から, 漢字を読むのが難しくなって, 読めないから, 内容が理解できなかった。」

「授業でやったところを音声付教科書を聞いて, 音読している。」

「文字を読むだけよりも, 音で聞けるから, 内容が理解しやすくなった。人の声だから, 記憶に残りやすい。」

「聞いて, 教科書の漢字に振り仮名を振っている。」

「ワークの文章問題がわかりやすくなった。」

学習全般に対する
意欲も
出てきています。

生徒自身が語った音声付教科書の利用法と感想

「小学生の時から、カタカナの読みが苦手だった。」

「`~で、~すると`を、`~ですと`と読んだりして、言葉の切れ目が変わり、違う意味になったりした。」

「漢字がわからなくて、飛ばして読んでいた。飛ばすから、文章の意味がわからなかった。」

「小学校中学年くらいまでは、授業中に何度も読むから、聞いて暗記して、授業中の音読は教科書を見ないで言っていた。」

「漢字を確かめられるし、音で聞けるから内容がわかる。漢字が読めるようになったし、音読がうまくなった。」



家で自主的に教科書の音読をするようになりました。

通級指導教室での音声付教科書の利用例

利用について相談，練習し，家庭学習として使用している生徒がほとんどです。



☆勝手読みをせずに，落ち着いて最後まで正しく読む練習。

・音を途中まで聞いたところで，かぶせて音読するため，語尾まで聞くことが難しい。

→1文を最後まで聞いてから，追い読みをする練習。

→人と会話をしているときに，相手の話を最後まで聞いてから話すことにもつながる。

☆文字を「見る」だけでなく，「ペンでタッチする」動作をすることで，飛ばし読みが減った。

☆「絶対勉強したくない」と，学習に抵抗があり，教室でも家庭でも教科書を読もうとしない生徒が，通級教室で，音声付教科書を使って文章を読むことには取り組んでいる。

読み支援への音声付教科書のさらなる効果的な利用のために

- ・生徒によっては、タッチペンとシールを利用することにより、ワークやテストに音声を付けることで、生徒にとって必要な合理的配慮ができる。そのためのアセスメントに基づいた支援を行いたい。さらに必要性のある生徒への支援教材として、Multimodal Publication Producer を利用して教材作成ができるようになりたい。
- ・「マルチメディアデイジー教科書」や「AccessReading」の利用法について習熟し、生徒一人一人に合った学習方法を知らせることができるようになりたい。その上で、パソコンやタブレットを利用した音声教材と音声付教科書それぞれの利点を生かした学習方法について生徒や家族と相談して、効果的な学習をさせたい。
- ・通常の学級の教科担任との共通理解、連携を進め、授業との関連を重視した支援をすることが重要である。